

平成27年度

聖坂学園 事業所・施設事業報告

オリブ工房（パン工房オリブ）
ナザレ工房（パン工房ナザレ）
シーダひのき工房（カナン工房）
シーダ日野学園
オリブの家
ナザレンホーム
眞砂ホーム
横浜市神之木地域ケアプラザ

平成28年5月25日

社会福祉法人聖坂学園 理事会・評議員会

1. 施設運営について

平成27年度においても法人理念を基として、障害福祉分野では、施設入所支援、障害福祉サービス事業の生活介護、短期入所事業、共同生活援助事業を行いました。又、地域ケアプラザは地域福祉の拠点として、介護保険制度及び横浜市委託事業における各事業について、ほぼ事業計画に基づいて実施いたしました。

障害福祉分野では、平成27年度、共同生活援助事業（グループホーム）は4年の歳月を経て、第2ナザレンホームが馬場町に定員増と共に移転して再活動することができました。これで、法人内ホーム6カ所全てが、365日運営となり、職員も夜勤体制でのローテーション勤務となりました。

一方、「利用者の命と安全を守り利用者個人を尊重し安心した生活を送って頂くこと」を目指して支援を行いましたが、残念ながら一部で実現できていなかったことを反省しています。7月末にシーダ日野学園において職員による不適切・虐待行為が発覚し、精査して関係職員へのヒアリングや処分等を行いました。その後関係職員が退職することになり、急遽支援体制を整え年度末まで対応いたしました。被害者への説明と謝罪、保護者会報告等を行い、現在法人・施設を上げて再発防止計画を策定中であります。法人・横浜市への報告が遅れた点は反省点でした。

高齢者福祉分野では、地域ケアプラザの設置目的（使命）『市民の誰もが地域において健康で安心して生活を営むことができる』ように、また神之木地域ケアプラザの重点方針、「支援が必要な人に寄り添い丁寧な支援」を行うことを目標に、行政、区社協、地域、保健・医療機関、同業者等と連携・協働し、地域の課題解決に向けた取り組みを、地域の方や多くのボランティアの方に支えて頂き、職員が協力しチームワーク力を発揮して、各事業活動を積極的に行いました。

第2期指定管理期間の5年間（平成23年4月1日～平成28年3月31日）も多くの方に支えられ、大過なく事業運営を終えることができました。

2. 利用者支援について

利用者については、新規利用者として新卒の方13名を法人全体で受け入れました。また、法人内で3名の方がより近くの施設に移行しました。退所利用者4名は、家庭生活が困難になり他法人の障害者支援施設等の入所や近隣の施設に移行しました。また、第二ナザレンホームが再び活動することで、第一、第二ナザレンホーム合わせて、新たに8名の入居者が加わりました。全体では、利用者を増員することができましたが、高齢化重度化していく中で、疾病による入院等で、平均利用率を昨年度より下回る通所施設もありました。年齢と共に身体機能の低下や疾病が見つかる等、食事や健康面では、栄養士や看護師又は精神科医師との連携は欠かすことができない状況になりつつあり、協力病院をはじめ近隣病院との連携の重要性も高まってきました。一方、社会参加は今や当たり前ですが、施設内に留まらず、休日には地域での買い物・外食・余暇外出など積極的にメリハリのある支援を行いました。特に障害者支援施設では、後見人であったご家族が亡くなり、成年後見人を選任された方もおられました。

高齢化・重度化していく利用者の支援内容の研鑽と共に、この地域に潜在する障害福祉のニーズに応えるようソーシャルワーク力を高めていきながら、各事業所・施設は利用者寄り、人権の尊重を基本にしながら、意思決定支援（自己決定、自己選択）を大切に支援してきました。

3. 職員の状況について

職員は、異動職員10名、新採用・中途採用職員は合わせて50名でした。特に、ナザレンホーム365日運営体制に伴い夕方、夜間パートの職員を新たに採用したこととシーダ日野学園、真砂ホームの急遽体制を整えるためでありました。

また、オリブ工房では、疾病等で退職者が出ました。その後、人員配置基準を満たすことができず、また法人内では充足できず、9月より6ヶ月間の給付収入に対して減算措置となり、経営上大変厳しく苦しい状況になりました。漸く2月に正職員を確保することができました。

元々、4月より法人全体で支援員の欠員が続いており、直ぐには充足できませんでした。更に新年度採用者の応募等、広報活動、ネット媒体、知人の紹介など必死に取り組みました。1年をかけて採用試験に取り組み、10回を超える面接日程を組みました。12月の時点でも、次年度にかなりの必要があり、このままでは、グループホーム、障害者支援施設の運営出来ない状況にまで迫ってきました。法人会報、各施設のたよりを通して家族、関係者に周知しました。なんとか年度末で最低限の職員を採用することができました。残念ながら本来の支援体制にするには充足できませんでした。育成を通して、離職させないことがもっとも大切ですが、とにかく異様な職員採用状況が続いています。時間とお金と労力を費やし、費用対効果も含めると今後更なる叡智が必要です。

人材の育成では、支援困難な利用者については課題も多くありますが、職員は個人に応じた支援力を高めて行ってきました。各施設内部研修に力を入れると共に、県連合主催の新人職員研修、横浜知的関連施設協議会の権利擁護研修にも積極的に参加し、人権感覚を養うことに努めました、更に、支援向上のために、マカトン法基礎コース、てんかん援助セミナー等の外部研修に派遣し研鑽の機会を持ちました。

4. 障害各事業所・施設活動報告について

(1) 利用者の入所・退所報告

事業所 施設	オリブ工房 (パン工房)	ナザレ工房 (パン工房)	シーダひのき工房 カナン工房	シーダ 日野学園	オリーブの家 (第1・第2)	ナザレンホーム	眞砂ホーム (第1・第2)
定員	60名	60名	50名	生活70名 入所50名	11名	15名	20名
年度始 契約利用	61名	54名	57名	生活70名 入所50名	11名	14名	20名
入 所	3名 (新卒3名)	7名 (新卒7名)	6名 (新卒3名 法人内3名)	0名	0名	8名	0名
退 所	0名	2名	2名 (他法人入所)	0名	0名	0名	0名
年度末 契約利用	61名	52名	55名	生活70名 入所50名	11名	14名	20名

(2) 職員の入職・退職・法人内異動報告 (パート職員も含む)

事業所 施設 (職員数)	オリブ工房 (パン工房)	ナザレ工房 (パン工房)	シーダ ひのき工房 カナン工房	シーダ 日野学園	オリーブの家	ナザレン ホーム	眞砂ホーム	神之木 地域ケアプラザ
	(32)	(27)	(31)	(66)	(13)	(5)	(20)	(34)
就任合計	2名	2名	5名	13名	0名	18名	3名	7名
(正職)	2名	1名	2名	8名	0名	0名	1名	1名
(臨職)	0名	1名	2名	0名	0名	0名	0名	0名
(パート)	0名	0名	1名	5名	0名	18名	2名	6名
異 動	0名	0名	1名	4名	1名	3名	1名	0名
退職合計	7名	2名	4名	16名	5名	9名	3名	12名
(正職)	4名	0名	1名	8名	2名	2名	1名	1名
(臨職)	1名	0名	3名	1名	0名	0名	0名	0名
(パート)	2名	2名	0名	7名	3名	7名	2名	11名
異 動	0名	1名	2名	4名	0名	0名	3名	0名

法人全体 年度内中途採用も含む () 内は昨年度

就 任 50名 (34名)

内訳： 正職15名 臨職 3名 パート32名 異動 10名

退 職 58名 (29名)

内訳： 正職19名 臨職 5名 パート34名 異動 10名

(3) 各事業の実施件数報告

① 生活介護事業年間実施日数 総支援日数 251日 (昨年度251日)

事業所・施設	オリブ工房 (パン工房含)	ナザレ工房 (パン工房含)	シーダひのき工房 (カナン工房含)
延べ利用数	13,618人	10,912人	12,461人
平均実利用者	54.3人 (56.2)	48.0人 (41.8)	49.6人 (46.3)
定員に対して 利用率	90.5% (93.7%)	79.9% (82.1%)	99.3% (92.6%)

②短期入所事業の利用人数及び利用日数

事業所・施設	オリブ工房 (パン工房含)	ナザレ工房 (パン工房含)	シーダひのき工房 (カナン工房含)	シーダ 日野学園
延べ利用人数 (昨年度)	21件 (20件)	31件 (28件)	31件 (73件)	441件 (497件)

③日中一時事業 (通所施設のための事業)

事業所・施設	オリブ工房 (パン工房含)	ナザレ工房 (パン工房含)	シーダひのき工房 (カナン工房含)
延べ利用件数	114件 (41件)	189件 (240件)	89件 (81件)

④送迎サービス (通所施設のための事業)

事業所・施設	オリブ工房 (パン工房含)	ナザレ工房 (パン工房含)	シーダひのき工房 (カナン工房含)
延べ利用人数	3,419件 (3606件)	5,706件 (2543件)	3,551件 (4217件)

5. 神之木地域ケアプラザ活動報告

(1) 地域活動交流事業

1. 子育て支援 2. 障がい者支援 3. 高齢者支援 4. 地域支援

(2) 地域包括支援センター

【総合相談事業】～ 社会福祉士

①総合相談②権利擁護③高齢者虐待

【介護予防事業】～ 保健師等

①介護予防スペシャル講座②介護予防出前講座の開催③介護予防相談会の開催

④音楽で認知症予防講座の開催⑤元気づくりステーションへの支援⑥二次予防

対象者の把握と介護予防ケアマネジメント⑦介護予防に関する情報の整理・発信

⑧要支援者のケアプランの作成

【包括的・継続的ケアマネジメント支援業務】～ 主任介護支援専門員

1. 地域住民・関係機関との連携推進支援

2. 医療・看護の連携推進支援

- 介護予防ケアプラン作成件数 3,732 件(前年比 256 件)
 - 新規 121 件(前年比▲6 件) 継続 3,611 件(前年比 262 件)
 - 自所作成件数 1,268 件(前年比▲102 件) 比率 34.0%(前年比▲5.4%)
 - 委託件数 2,464 件(前年比 +358 件) 委託率 66.0%(前年比 +5.4 %)
- 相談件数 総件数 1,586 件(前年比 ▲47 件)
 - 内、来所 953 件(前年比▲46 件)内、電話等 633 件(前年比 ▲1 件)
- 相談者 家族 818 件(前年比▲63 件) 本人 380 件(前年比+37 件)
 - 居宅サービス事業者等 208 件(前年比▲11 件)
 - ※地域住民 73 件(前年比▲14 件)うち 民生委員 52 件(前年比+2 件)
 - 医療機関 76 件(前年比+11 件)施設 6 件(前年比▲1 件)など
- 相談内容 介護保険関係 1,162 件(前年比±0 件)日常生活課題 170 件(前年比 ▲36 件)介護(認知症以外) 35 件(前年比▲61 件)医療(認知症以外) 43 件(前年比 +2 件)認知症(B P S D) 48 件(前年比▲1 7 件)施設入所・入院 54 件(前年比▲3 9 件)行政サービス 17 件(前年比▲5 件)インフォーマルサービス 35 件(前年比+4 件)成年後見制度・消費者保護 57 件(前年比▲22 件)うち虐待 12 件(前年比▲5 件)
- 援助内容
 - (申請受付)介護保険 277 件(前年比▲85 件)行政サービス 94 件(前年比+91 件)
 - (他機関等との調整)居宅サービス事業者等 154 件(前年比 ▲1 7 件)区役所 52 件(前年比 +2 0 件)施設・医療機関 49 件(前年比+4 2 件)
 - 地域の福祉保健関係者 23 件(前年比+1 5 件)その他 18 件(前年比+7 件)

【介護保険部門】

- ①介護認定調査 111 件(前年比+50 件)(※区との年初契約件数 110 件)
- ②ケアプラン(要介護者)作成件数 852 件(前年比▲5 件)
- ③軽度者(要支援者)ケアプラン受託件数 175 件(前年比▲6 件)

(2) 通所(予防通所)介護事業(デイサービス)

1. 利用状況(年間延べ利用者数)
 - (要支援 1・2) 894 人(前年比 + 86 人)
 - (要介護 1~5) 4,729 人(前年比 + 217 人)
 - 計 5,623 人(前年比 + 303 人)
2. 介護度別延べ利用者数 5,623 人(注)()内は構成比率
 - 予防通所介護 894 人(15.9%)
 - (内訳)(要支援 1)212 人(3.7%)(要支援 2) 682 人(12.1%)
 - 通所介護 4,729 人(84.1%)
 - (内訳)(要介護 1) 776 人(13.8%)(要介護 2) 2,352 人(41.8%)
 - (要介護 3) 804 人(14.3%)(要介護 4) 588 人(10.5%)
 - (要介護 5) 209 人(3.7%)

3. 1日平均利用人数 18.9人（前年比 +1.5人）
 年間稼働日数 309日（前年比+3日）

4. 契約者数（H28年3月31日現在）
 （要支援1・2） 12人（前年比±0人）
 （要介護1~5） 50人（前年比 +2人）
 計 62人（前年比 +2人）

6. 事故報告・ヒヤリハット・苦情、要望解決

事業所 施設	オリーブ工房 (パン工房)	ナザレ工房 (パン工房)	シーダ ひのき工房 カナン工房	シーダ 日野学園	オリーブの家	ナザレン ホーム	眞砂ホーム	神之木 地域ケアプラザ
事故報告	40	8	19	59	2	3	12	0
ヒヤリハット	3	3	4	18	0	0	5	9
苦情・要望	4	1	3	2	1	1	0	0

①事故報告・ヒヤリハットの主な事由

- ・利用者同士の他外行為による引っ掻き傷・擦り傷、打ち身等。
- ・一時居所不明。
- ・投棄ミス。
- ・グループホーム、フライパン過熱による火災 消火器にて消火（消防・警察）
- ・公用車の事故（追突される）（職員）。
- ・職員の支援把握、引き継ぎ確認不足。

②苦情要望の主な事由

- ・苦情解決制度に至らないものですが、以下列挙いたしました。
- ・利用者支援に関する要望や相談、家庭生活における相談が主なものでした。
- ・利用者同士の掴み合いの事故を通して、その親同士の直接のやり取りからの苦情。
- ・作業活動における取り組みや支援員の態度に対する苦情が3件ありました。
- ・近隣住民より匿名で職員の送迎車の運転が粗いという苦情をご意見箱に頂きました。
- ・ユニット職員による職員の不適切行為・虐待行為通報
- ・おむつ及び記録の件（市）

7. 27年度事業所・施設の事業実施状況・評価等報告

事業運営・実施状況・評価等報告	
オリブ工房・パン工房オリブ	<ul style="list-style-type: none"> ・定員利用者は、新卒3名を迎え、定員60名に対して利用契約者61名でした。また、パン工房より3名の利用者が本体施設に移り活動しました。しかしながら体調不良や長期入院の利用者が多く、利用者出勤率は90%平均で、経営面では昨年度に引き続き厳しい状況が続きました。 ・利用者支援で特に、ご家庭での生活に困難なケースに対して、オリブ工房が中心となって関係機関とケースワークし以下のように実践しました。昨年度末の3月より母親が重い病にかかり、家庭での生活が困難となり、本施設の短期入所と市内・障害者支援施設の短期入所、法人型地域活動ホームのショートステイと複雑な利用について生活を懸命に繋ぎ、凌ぎました。また、利用者1名は心臓疾患により人工弁への手術のため5月より1ヶ月半の入院、更に9月に尿路感染に罹り2週間の入院をいたしました。近年、ご本人の疾病と高齢のご家族を支援する大切な時期にあり、更にソーシャルワーク機能を高め支援していきたいと願っています。 ・月ごとの常勤換算は充足していると思っていたのですが、昨年度の実績数との換算となることが分かり、11月より給付収入に対して減算措置となり、経営上大変厳しく苦しい状況になりました。 ・今期の主な行事も計画通り実施できました。特に、9月の旅行は、総勢87名で西伊豆へのバス旅行でした。前日に台風18号が東海地区に上陸し影響を心配しましたが、全ての行程(遊覧船など)を無事に行えました。 ・パン工房オリブでは、職員体制が変わりましたが、これまでの働きを継続しつつ、販路を維持してきました。地域の方々に好評をいただいています。
オリブの家	<ul style="list-style-type: none"> ・「オリブの家」・「第2オリブの家」共に365日入居体制と職員は夜間勤務として、2年目でしたが、ローテーション勤務も滞りなく行えました。入居者との信頼関係づくりを大切にして努めました。入居者は休日の過ごし方、実家への帰宅、睡眠等、生活リズムの変化が生じ、様々な課題もでてきましたが利用者に寄り添いつつ、地域支援担当、バックアップ施設との連携をもって支援してきました。 ・「オリブの家」は、入居者、男性2名と女性4名の計6名、「第2オリブの家」は、入居者、男性5名で入居者合わせて11名は変わりありません。入居者は、生活の幅を広げるために、ガイドヘルパーの利用で買い物やウォーキング等を楽しみました。ホームごとケーキ等を購入して誕生会を行い充実した生活を送っています。 ・グループホームのミーティングでは、地域支援担当、バックアップ施設との連携をもって、月ごとの利用者ケースカンファレンスを通してより良い支援を構築しています。 ・女性入居者の一人は、昨年の1月より実家帰省の際に親への粗暴行為が続くようになり、関係者のカンファレンス後、原則ホームでの生活を取り組み続けていますが、その間ホームでの声だしや粗暴行為による壁叩きで、隣家からの苦情があり、防音対策など設備の改善と複数支援体制の強化をもって対応と謝罪しつつ真摯に努めてきました。(横浜市担当も加えて) 漸く年末年始も落ち着いて過ごすことができしておりますがより本人の精神的安定と共に支援力を高めて取り組みました。

ナザレ工房・パン工房ナザレ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3月に開所したパン工房ナザレは、パンの販売に向けて、地域にチラシを配布したり、製パンの作業行程の練習を積み重ねていきました。7月のナザレまつりで初売りをを行い、7月末からは店舗での販売も開始いたしました。また、10月初旬に1泊2日で伊香保旅行に出かけました。以前に、天候不良で行き先を変更し、見学する事が出来なかった大宮鉄道博物館にも行く事ができました。クリスマスの時期に、期間限定のパンの予約販売（クグロフ）を行い大変好評でした。余暇活動の充実を図り、7月と3月に1日外出で川崎駅周辺や中華街へ出かけて行き外食の機会を設けました。外出時に、転倒して足を骨折し1か月の入院をしてしまったり、前立腺炎で5日間入院する利用者がありました。 ・ 新規利用者7名を加えて54名でスタートしました。6月と12月に退所者があり52名の在籍で年度末を迎えました。出勤率の年平均は79.9%となっています。 ・ 2名の新規採用職員を迎えてスタート致しました。6月にはパート職員が2名退職したり、8月の中旬から1か月間はメンタル面で休職する職員がおりました。シーダ日野学園に女性職員が急遽必要になり、1月から1名法人内異動致しました
ナザレンホーム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2ナザレンホームが復活し、ナザレンホームを含めて365日運営の体制でスタート致しました。地域支援担当職員を男女1名ずつ配置し、各ホームの調整役とバックアップにあたりました。また、複数体制で対応する為に、パート職員の確保に取り組みましたが、厳しい状況が続きました。町内の夏祭りや自治会主催の消防訓練に参加する等して、地域との連携を図っていきました。 ・ ナザレンホームは、3月末に男性3名が引っ越し、新規入居者3名を迎えて6名でスタートいたしました。新しい入居者の方は体験的な入居を行いながら、生活を整えていきました。新規入居者で睡眠のリズムが整わない方がおりましたが、医療や工房、家庭との連携を取りながら行い、現在は付き添いながら眠る事が出来るようになりました。当初は週末に帰宅していた方も、生活に慣れてきた事でホームで過ごす機会も増えてきました。 ・ 馬場3丁目ビルに復活・移転・増員し、4月より入居を開始いたしました。当初は週末には帰宅していた方も、生活に慣れていく中で週末をホームで過ごし、ご家族が訪問されるケースが増えてきました。通勤や余暇支援としてガイドヘルパーの利用を始める方も出てきて、生活の幅も広がってきました。依然として、夜間の睡眠が安定しない入居者については、横浜市大病院へ転院して服薬の調整をおこなっています。前立腺炎の為に5日間、協力病院へ入院する方もおりました。 ・ 各ホーム世話人3名を配置し、ローテーション勤務で365日体制で行いました。地域支援担当職員を男女1名ずつ配置し、各ホームの入居者の工房職員、保護者や居宅事業所との連絡調整を行ったり、バックアップ職員として対応しました。食事作りのパート職員を採用し、夕方や夜間にパート職員を募集しましたが、採用は厳しい状況が続きました。月1回グループホーム会議を実施し、運営全般の確認や入居者支援の共通理解を深めました。

シーダひのき工房・カナン工房

- 本体施設シーダひのき工房と従たる事業所カナン工房の両事業所において、情報共有しながら一体的に運営を進めてきました。
- 経営面では、定員を越える利用者を受け入れて、送迎サービスもニーズに可能な限りで対応し、出勤率アップ収入アップに努めてきました。
- 利用者の高齢化に伴い出現してくる様々な心身の状態の変化や課題、本人並びに家族のニーズに柔軟に対応できるように心がけてきました。
- 職員については、年度当初計画通りに採用できず、求人活動を継続してきましたが、年度末となっても充足には至りませんでした。
- 支援においては、職員が整わない中でしたが、利用者が安全で安心して過ごせ、個々に豊かな活動を提供できるように取り組んできました。また作業室のパーテーションを開放してワンフロアとし、全利用者を全支援員で把握、関わりを持つように心がけてきました。
- 行事については、教養娯楽活動の充実や日々の生活にメリハリをつけることを目的として、計画通りに行えました。
- 地域交流については、利用者の生活の安定を第一としつつ、できる範囲で前向きに受け入れ、関わりを深めてきました。
- カナン工房については、委託販売や店頭販売も積極的に進めてきました。特に秋から冬にかけてはバザー出店やクリスマス時期の注文を多く頂き、クッキー製造に忙しい日々を送ってきました。また同時期に法人事業所の職員人事での異動がありました。繁忙期でしたが、利用者、職員一丸となり全ての注文に応えることができました。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">シーダ日野学園</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設入所支援、生活介護、短期入所の各事業は計画通り実施した。各事業は支援計画により実施され、利用者支援は個別支援計画に基づき支援が行ないました。 ・利用者の暮らしを「安全・安心・安定」を基本にし、人権擁護について啓発・研修に努めてきたが、7月末に麦2ユニットにおいて職員による不適切・虐待行為が発覚し対応に追われました。被害者への説明と謝罪、保護者会報告等を行い、現在法人・施設を上げて再発防止計画を策定中であります。法人・横浜市への報告が遅れた点は反省点であります。 ・大小含めた事故がありヒヤリハットも含めて検討と対策が取られました。感染症対策では、学園では初めて利用者1名がノロウイルスに感染しました。また職員1名がインフルエンザに罹りました。すぐ予防措置をとり両感染症共に集団感染には至りませんでした。その他、今年度も災害対策の一環で夜間想定防災訓練をユニット単位ごとに実施しました。 ・前年度発足した「利用者の会」は順調に行なえており、職員は、「意思決定支援」「行動障害支援」「高齢化支援」とテーマにし事例研究発表会を実施しました。 ・利用者の状況は、年度内の利用者の異動はなく、入所支援事業の利用者定員・実員50名と生活介護事業70名の変更はありませんでした。今年度も疾病と身体機能の低下がある利用者が目立ち、生活支援する中で病院対応を優先するケースが多くありました。。入院は6件あり、急性肺炎・S字結腸腫瘍・腸閉塞・重積発作・投薬調整によるものでした。年間通院回数は979回で増えており、受診科は13科でした。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">眞砂ホーム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共同生活援助事業を実施すると共に、事業は支援計画により実施されていた。利用者支援は、個別支援計画に基づき行なわれました。 ・グループホーム「眞砂ホーム第一・第二」において、24時間365日型の運営を行ない開所3年目を終了しました。利用者定員は、第一 男性10名、第二 女性10名、計20名でした。バックアップ施設のシーダ日野学園と連携をとりました。 ・利用者は高齢・重度化している実態に鑑み、職員は6人のローテーション勤務であります。しかし今年度は1月より支援職員が2名異動で減ったため、利用者支援に影響がでないように勤務形態を変更し支援にあたりました。 ・利用者は、平日の日中はシーダ日野学園の生活介護を利用した。通所先のシーダ日野学園では、本入所者と同じ日課に参加し、手工芸や手織り、リサイクル作業、製パン・喫茶等の作業に参加しました。 ・3年目で利用者・家族共に慣れ、利用者がホームでの生活に落ちついて生活しています。その事と相まって、休日等の実家帰宅が大分減少しました。 ・今年度は、第二でインフルエンザが流行り集団感染防止策をとって対応しました。

- ・地域ケアプラザの設置目的（使命）『市民の誰もが地域において健康で安心して生活を営むことができる』ように、また神之木地域ケアプラザの重点方針、「支援が必要な人に寄り添い丁寧な支援」を行うことを目標に、行政、区社協、地域、保健・医療機関、同業者等と連携・協働し、地域の課題解決に向けた取り組みを、地域の方や多くのボランティアの方に支えて頂き、職員が協力しチームワーク力を発揮して、各事業活動を積極的に行いました。
- ・『第3期 神奈川区地域福祉保健計画（かながわ支え愛プラン）（計画期間：H28～32年度）』の「地区別計画」の計画策定に向け、担当エリアの「地区別計画策定推進懇談会」に地域別グループのメンバーとして出席し、地域が中心となって、区役所、区社協、地域ケアプラザなどが連携・協働して『第3期 地区別計画』を策定しました。
- ・平成28年度3月末は平成28年度以降に向け、「地域包括ケアシステム」の一層推進するために、平成28年4月1日より新たに配置される「生活支援コーディネーター」の配置及び担当エリアの高齢者人口が多いことによる地域包括支援センターの加配による人員増（2名）等の求人等に追われました。
- ・地域活動交流事業として、自主事業活動でのアンケートの実施や貸館利用者などから意見を伺い、地域の方から直接生の声を伺い、今後の事業等に活かします。毎月、広報紙「梢」を発行、地域へ配布、同内容をホームページ、掲示板にも掲示し、広報活動に努めました。また地域の福祉保健活動団体等（体操のサークル）の活動紹介を広報紙に掲載し、貸館利用率のアップ等に努めました。
- ・居宅介護支援事業において、サービス提供にあたっては、ご本人やご家族の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立って、利用者に提供される指定居宅サービス等が特定の種類又は特定の居宅サービス事業者に不当に偏ることのないよう、公正中立に行いました。
- ・要介護者の方が、極力、住み慣れた地域で安心して暮らしていくことができるように、区役所、医療機関と他の介護事業者等と連携して対応に努めました。
- ・通所（予防通所）介護事業（デイサービス）では、ご利用者が、要介護状態となった場合でも、可能な限り居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な日常生活上の支援や機能訓練を行い、利用者の社会的孤立感の解消や心身の機能の維持・向上を図るとともに、あわせて利用者の家族の身体・精神的負担の軽減等に努めました。